

インクルーシブ教育システム構築の推進に向けて

～児童生徒が安心して活動できる交流及び共同学習を目指して～

提案者 栃教協教研推進委員会特別支援教育部
宇都宮市立晃宝小学校 教諭
土 屋 和 子

1 提案趣旨

インクルーシブ教育システムの構築推進が提唱されたことにより、各学校では交流及び共同学習が進められ、児童生徒を皆で育てていこうという雰囲気が醸成されてきた。そのような中で、障害の有無にかかわらず、児童生徒同士がお互いに個を認め合い、学習や生活をしていこうという意識が育ってきている。しかしながら、現在の本県でのインクルーシブ教育システムの推進状況を鑑みると、地域・学校種別により大きな差が見られる。

そこで本部会では、県内各地から事例を収集し比較・検討することで、交流及び共同学習の円滑な推進に向けてのポイントやヒントを明らかにしていくこととした。これを活かし、各校の実情に適したポイントやヒントを取り入れてもらうことで、児童生徒が安心して活動できる交流及び共同学習がより推進されることを願っている。

本提案が、本県のさらなるインクルーシブ教育システム構築の推進につながると共に、これからを担う若い先生方の参考になれば幸いである。

2 提案計画と提案内容

(1) 提案計画：3年計画 本年度はその1年目

R2年度（1年目） 「1日の流れ」	登校から下校までの交流及び共同学習を進める「ポイントやヒント」について提案
R3年度（2年目） 「行事・式典」	学校行事、式典(入学式・卒業式)、宿泊行事等に交流する際の「ポイントやヒント」について提案
R4年度（3年目） 「交流授業」	技能面を中心にした支援の工夫 理科の実験、図工(美術)、技・家、外国語、体育等について提案

(2) 提案内容（R2年度）

①「一日の流れ」の中での交流及び共同学習について

「登校」「朝の会」「朝の学習」「授業参加に向けて」「給食」「昼休み」「清掃」
「帰りの会」「委員会」「クラブ・部活動」「下校」

② 学校種別の中での交流及び共同学習について

ア 「小学校」

イ 「中学校」

③ 交流及び共同学習を進める際のポイントやヒントについて

ア 交流する際の前提条件

イ 配慮点・工夫点・留意点

ウ 改善策へのヒント

3 成果と今後の課題

(1) 成 果

①事前の環境整備と情報共有の大切さ

- ア 年度当初の共通理解による環境整備
- イ 年度当初の児童生徒の情報共有

②関係づくりの大切さ

- ア 支援学級児童生徒と交流学級児童生徒同士の関係づくり
- イ 支援学級児童生徒と交流学級担当教師との関係づくり

③事後の情報共有の大切さ

- ア 本人の努力を賞賛・承認
- イ 支援の手立てや交流の仕方の修正
- ウ 保護者との信頼関係構築の手段

(2) 課 題

①インクルーシブ教育システムの構築が推進された校内体制作り

- ア 管理職のリーダーシップ
- イ チームによる児童生徒指導体制
- ウ 情報共有体制
- エ 授業や環境のユニバーサルデザイン化
- オ I C T環境の整備

② 特別支援教育に関する啓発

- ア 校内研修会の実施
- イ 情報提供